

## 2023 年春季 参加報告書

**参加プログラム：ディーキン大学**

**参加時の学年：2 年、学部：人文、学科：英語英米文化**

留学の目的は、はじめはとても簡単なものでした。私は海外に行ったことがなく、海外に簡単に行ける時間も機会も用意されているのは学生のうちだと考えたので海外の文化に触れるということを第一の目標にしました。

5 週間の留学では、英語力の向上などは、5 週間の留学ではあまり変わらないとある程度分かっていたため、期待はしていませんでした。しかし、予想とは打って変わって「英語を話すこと」に慣れたためか、マインドの面で能力が向上したと感じました。学校のクラスは日本人が多く、自分で外国人に絡んでいかないと外国人の友人を作ることは意外と難しいとも感じました。ジムを利用したり、コミュニケーションルームに通ったり、バスケットボールをしたりと、ある程度日本人たちと絡まないという行動を 5 週間という短い留学であるということを理由に行う必要がありました。留学生活では既存のルームメイトや日本人とも絡みながら友人を紹介してもらったり、ホスト先では会話をたくさんしたりすることによって英語に触れ続けるようにしていました。また、日記を note というアプリで毎日打ち続けることによって一日一日を大切にしながら、振り返ることが出来るようにしました。一日につき 1500 字ほど書いていたので、通算 30000~40000 字程になりました。これだけでも留学中にする一つの挑戦だったといえるかもしれません。やるべきこととしてのアドバイスを加えるとすれば、留学中にしたいことや、絶対に成し遂げること、行きたい場所、小さなチャレンジ、なんでもいいからいくつか自分の中で決めることです。大きさや難しさなどは関係なく、ただでさえ初めてが多い海外の生活で、限られた 5 週間という期間の中でただ日常を過ごしていただくだけでは勿体ないと感じたからです。

印象に大きく残ったのは、オーストラリアは日本とは違って余裕のあるのんびりした自由な暮らしを遅れているような気がしました。時間に追われ、課題に追われ、人間関係に追われ、周りとの比較に追われる忙しい毎日とは裏腹に、交通機関がほとんど遅延しているといった日本ではありえない現象は、なんだか時間を気にせず過ごしていてゆっくり時間がたっているように感じて私は心地良かったです。また、日本にも外国人の人はいますが、同い年の外国人と絡めるという経験は留学でなければできないのではないかと思います。さらには、オーストラリアには多くの人種がいます。オーストラリア、インドネシア、アメリカ、カナダ、コロンビア、ブラジル、中国、イギリスなどです。学校のプログラムは午前授業、昼休み、午後授業を週 5 日×4 というものでした。休日は好きなことが出来て、学校ではツアーなども組むことが出来ました。有料で少し高いので個人的には、自分のお金で自分たちで行ったほうが自由にまわられて、安く済んで、長い話を聞かなくてよいので、いいのではないかと思います。ホストファミリーとの交流は家の中でほとんど行われて、どこかへ外出は近くのスーパーくらいでした。私は門限もなければ、シャワーの時間制限も、ご飯も、洗濯も何も不自由のない素晴らしい待遇を受けました。ホストファミリーには感謝してもしきれません。夕方ごろに家にいるときは夕食を手伝ったり、時には夕食をふるまったこともありました。その時の皆の笑顔は忘れられません。たくさん大切な出会いや大切な時間、感情をいただいて、一日一日の尊さを知ることが出来ました。

今後の目標として強く植え付けられたのは、今したいことを今しかできないことを全力でやるということです。